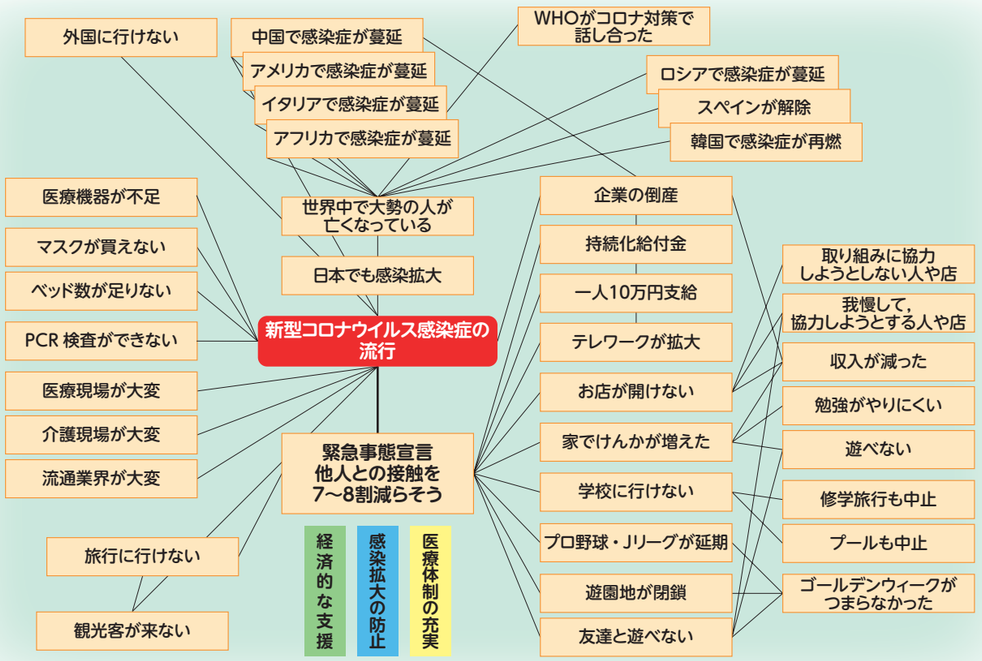


▲ウェブ図「新型コロナウイルス感染症の流行によって起こった社会の変化」

国による緊急事態宣言が解除されましたが，全ての人々が「新型コロナウイルス感染症」とどのように向き合っていくのかという「問い」はこれからも続く課題であり，学びの場においても「地球規模の課題」への問題発見能力を向上させ，その解決のために多様な視点から学び合い，連携・協力し合うことが必要であるという，認識・自覚を深めることにつながっていきます。

来年度からは中学校でも新学習指導要領が施行されます。このような学びを進めることによって，生徒自身が，発見した課題に対して自ら考え，他者と交流し，変容していくという，「主体的・対話的で深い学び」が実現されていくのではないでしょうか。

（活動案作成：日本ESD学会副会長　手島利夫）

編集部より

道標プラス第７号をお届けします。今回から2回にわたってSDGsを取り上げます。SDGsは世界を持続可能なものにしていくために国連で採択された目標です。私たち一人一人が関心をもって取り組む必要があります。授業への導入案は新版教科書でSDGs・ESDに関する校閲をお願いした，手島利夫先生にご協力いただきました。

「新型コロナウイルス感染症」を受けた緊急事態宣言が解除され，施設や学校の活動が段階的に再開されつつありますが，有効な治療薬やワクチンの開発には，しばらく時間がかかるようです。私たちも「新しい日常」を学校現場の皆様と一緒に考えてまいります。

ひき続き，ご意見・ご感想などをお寄せいただければ幸いです。

右のQRコードから，弊社ホームページの新版教科書の紹介ページもご覧ください。

発行　教育出版株式会社　〒135-0063　東京都江東区有明3-4-10　ＴＦＴビル西館　電話03（5579）6864（編集局）
URL　https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/

本資料は，文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき，一般社団法人 教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」にのっとり，配布を許可されているものです。

中学国語通信

道標プラス
みちしるべ

令和３教　内容解説資料

第７号
2020.6

2021（令和３）年度　中学校次期学習指導要領（国語）の完全実施に向けて

国語教室の課題を考える

SDGs特集号①

SDGs（持続可能な開発目標）の視点をもつ

『伝え合う言葉　中学国語』編集委員会

● 全ての国の共通目標

SDGsは，日本を含めた全ての国が2030年までに達成すべき共通目標です。2015年に国際連合で採択されました。「誰一人として取り残さない」をキーワードに，全ての人々が，それぞれの立場から，世界を持続可能なものにするために必要な目標達成に向けて行動することが要請されています。現在，地球上で起こっているさまざまな課題について「自分ごと」として捉え，解決策を考え，表現し，行動していくことが重要です。

● 新学習指導要領とSDGs

今回の学習指導要領には，新たに「前文」が設けられました。ここには次のように記述されています。

> これからの学校には，こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ，一人一人の生徒が，自分のよさや可能性を認識するとともに，あらゆる他者を価値のある存在として尊重し，多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え，豊かな人生を切り拓き，持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

「前文」は「第１章　総則」「第２章　各教科」の前に置かれていることからもわかるように，学校教育の全般を通じて「持続可能な社会の創り手」を育成していくことが求められているのです。

● 国語科とSDGs

これまでも国語科の教材では，さまざまな話題・題材を取り上げてきました。

「伝統文化」「言語」「文学的文章」等，国語科固有のテーマにとどまらず，「環境」「人権」「平和」「国際理解」「科学」等，SDGsの17の目標に関連するものも数多く含まれています。そのため，従来取り組んできた学習の枠組みの中で扱うことが可能です。

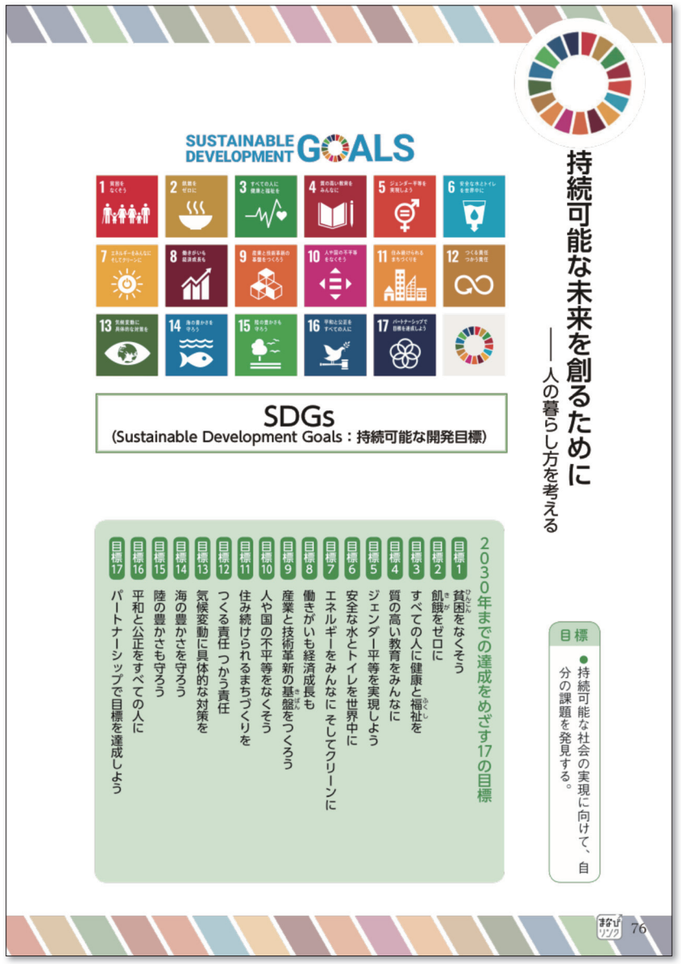
大切なことは，その教材のねらい（目標）とゴール（評価）です。内容そのものを直接の学習目的にしない国語科では，言葉を通じた理解や表現，そこに用いられた言葉自体を学習対象としています。「言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」を育成することが教科の目標です。

〔思考力，判断力，表現力等〕の三領域を通じた学習に加えて，話や文章に含まれている情報を取り出し，複数の情報を比較・分類するなど，情報の整理の仕方を身につけるために〔知識及び技能〕に新設された「情報の扱い方」を学ぶうえでも，国語科にSDGsの視点を取り入れることが有効です。

● SDGsを教材に

現代のグローバル化した情報社会，超スマート社会においては，SDGsに取り上げられている「地球規模の課題」は，「知識・情報」の収集に重点が置かれ，「自分ごと」としての実感をもたないまま学習が終わってしまう可能性があります。テレビやネットで流れている情報や映像と，私たちの日常生活との間に乖離がある場合は，その傾向がより強くなります。

ところが「新型コロナウイルス感染症」の世界的流行は，私たちのそのような日常を一変させました。この未曽有の事態は，全人類がリアルに直面した「地球規模課題」として避けては通れないものになったのです。これからの「ポストコロナ，アフターコロナ」ともいわれる社会とどのように関わっていくのか，「自分ごと」として考え続けていく必要があります。



新版教科書では，「答えのない問い」について学ぶ特設教材をはじめ，SDGsの視点で選定された教材が数多く用意されています。未来を持続可能なものにするために活用していただければ幸いです。

● 授業にSDGsを導入する

◉総合単元「持続可能な未来を創るために ――人の暮らし方を考える」（1年P76）
学習活動案（新型コロナウイルス感染症を例にして）

「新型コロナウイルス感染症の拡大を止めるための取り組みをどう進めたらいいのか」は，生徒にとって，極めて身近で深刻な課題であり，社会全体にとっても避けて通れない「答えのない問い」です。その問題について，以下のような学習活動をすることで，社会は予測もつかないような変化を続けていて，その克服は，SDGsのさまざまな視点につながっていることを理解し，「知ること」「なすこと」「ともに生きること」「人間として生きること」等，学びの重要さを具体的に「自分ごと」として捉える契機にしていきたいと考えます。

❶ この１年間を振り返り，新型コロナウイルスの流行がもたらした変化を，各自が知っている限りカード（付箋紙）に書き出す。（１枚に１つのできごとを書く）

❷ 班の仲間と，カードを出し合い，「新型コロナウイルス感染症の流行によって起こった社会の変化」を，班ごとにウェブ図にまとめる。（P4参照）

❸ 緊急事態宣言では人との接触を8割減らすよう国民にはたらきかけながら，**国内の医療体制の充実を図る。** **感染拡大を抑える。** **経済的な支援体制を整える。**の3視点から改善が図られたが，ウェブ図に貼った変化はこれらのどの視点と関係が深いか，マーカーで色分けする。

❹「新型コロナウイルス感染症対策」そのものは，SDGsの3番「すべての人に健康と福祉を」に該当することを全員で確認したうえで，これに該当する「変化」に3と書き込む。さらに，「健康と福祉への取り組みだけでこの問題は解決できるのだろうか？」と問いかける。

❺ そのうえで，ＷＨＯによる国際協力は17，テレワークの拡大や企業支援は9，開発途上国での拡大防止には6，店舗への休業要請等に協力するモラルの高さは4など，ＳＤＧｓの視点を踏まえた取り組みが進んでいることを確認する。

❻ ウェブ図を見直し，自分が「気になること」や「詳しく知りたくなったこと」を別の色のカードに書き出し，自分の名前も添えて，ウェブ図の関連するところに貼り合う。